

令和 7 年度第 1 回焼津市認知症対策連絡会議 議事録

1 開催日時 令和 7 年 7 月 23 日 (水) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 10 分

2 開催場所 焼津市役所本庁舎 1 階 会議室 1 B

3 出席者

(委員)

新井恵子委員（会長）、豊山弘之（副会長）、深沢直樹委員、天野雄一郎委員、丸山敏彰委員
五十右直委員、林綾子委員、中村吉里委員、小谷幸代委員、山中琴恵委員、酒井直樹委員
夏莉直己委員

※大石直子委員は欠席

(事務局)

飯塚隆晴地域包括ケア推進課長

※以下、地域包括ケア推進担当

松田智仁係長、松村美代子主査、後藤翔太主任主事、峰澤卓巳事務員、萩原葉子看護師

※以下、地域包括支援センター（認知症地域支援推進員）

北部：篠宮聰志、中部：高田由利子、南部：五十右億子、大井川：桶川麻保

※以下、認知症疾患医療センター

焼津市立総合病院：星野真寿美、やきつべの径診療所：寺坂久仁子

※以下、チームオレンジコーディネーター

望月隆仁、坂本彩加

4 内容

開会

(司会より開会宣言)

挨拶

(会長挨拶)

自己紹介

報告事項 (1) 令和 6 年度認知症施策の取組について

(2) 認知症疾患医療センターの取組について

(事務局より説明)

質疑・意見なし

協議事項　（1）令和7年度認知症施策の取組について

（事務局より説明）

- 会長　　ただ今の説明に関して、お一人ずつご意見をいただきたい。
- 副会長　　厚労省の2012年の推計では2025年に65歳以上の認知症の患者数が700万人になると予想されていた。しかし、2022年の推計ではそれが500万人となり減少した。理由としては、MC I段階で適切な対応ができたことにより、認知症になる人が少なかったため。焼津市にはMC Iの人がかなりいると思うので、認知症になる人を減らしていくためにも、介護現場を含めてMC Iの人を抽出する仕組みが大事だと思う。
- 委員　　歯科医院にも認知症の疑いがある方が多く来る。どの取組にするにあたっても、実行するためには人員が足りないので、人員確保についても十分検討していただきたい。
- 委員　　本人ミーティングは今年度既に2回実施していると思うが、実施して良かった点はあるか。
- 事務局　　「スーパー等のセルフレジに苦労している」「運転できなくなり、簡単に移動ができないことが辛い」などの認知症本人の悩みを教えてもらうことができた点かと思う。それに対する取組として、9月にイオン焼津店にて、認知症本人の方に向けたセルフレジ体験会を実施する予定である。
- 委員　　薬局にいてもお薬手帳を見ないと、認知症だと分からない人が非常に多い。中には、一人で車を運転してしまった人もいる。すぐの改善は難しいかと思うが、対応策を検討していただきたい。
- 委員　　認知症サポーター養成講座を様々な場所で開催しているのをよく目にするので、市民の認知症への理解は広まっていると感じる。本人ミーティングは昨年度から回数を増加し、10回を予定しているとのことだが現実的に実施可能か。
- 事務局　　焼津市立総合病院の協力を得て可能となっている。以前までは参加者が少なく、実施できないということが課題となっていたが、2つの認知症疾患医療センターに協力いただいたことで参加者を増やすことができ、市としても本人の声をより多く聞くために10回実施していきたい。
- 委員　　チームオレンジの登録制は良い取組だと思う。たとえチームに認知症本人の方がいなくても、ころばん体操を実施している団体などをチームオレンジとして登録することで、地域の方の認知症予防や物忘れが心配な人の見守りにつながると思うので、登録制を積極的に進めてほしい。
- 委員　　施設の職員は認知症サポーター養成講座の開催回数やチームオレンジの取組等を把握できていないのが現状。現在、市のこういった取組を職員に理解してもらうように施設内で働きかけている。取組に協力するためにも、施設の職員の意識を向上させることが重要だと感じている。
- 委員　　認知症の人は、家庭での様子とデイに来た時の様子に大きく違いがある。認知症の人にも外向けの顔があるため、事業所内に留まらず、内職や企業の手伝いなど利用者ができることを実施していきたい。認知症の人が社会参加できるようになれば、市民が認知症の人と接する機会も増えて、認知症への理解が広まると思う。
- 委員　　新規創設予定の居場所にチームオレンジになってもらうように働きかける取組は

良いことだと思う。認知症を自分事として捉え、認知症本人を疎外しない居場所の環境づくりをするためにも、居場所のチームオレンジ化は良い取組だと思うので今後進めていただきたい。

委員 昨年より、市民向けの認知症に関する勉強会を開催している。勉強会の参加者としては、現在介護中の人々はおらず、今後介護する可能性があり、知識をつけておきたいという人が参加してくれていることから、市民の認知症に対する意識が高くなっていると感じる。今後もこのような勉強会を定期的に開催していきたいと思っているので市にも協力を願いしたい。

委員 認知症に関しては、鑑別診断と抗アミロイド β 抗体薬の治療が中心となっている。鑑別診断を行った後はかかりつけ医の先生に患者の方をお返しするので、認知症疾患医療センターとかかりつけ医との連携を大事にしていきたい。また、認知症サポートー養成講座やチームオレンジが着実に増えていることは良いことだと感じる。実施するだけでなく、その次の段階として医師会や病院が、講座やチームオレンジの活動に参加して内容を検証できるように連携していくべきだ。

委員 診療をする際に回想法を実施している。回想法を用いながら時間をかけて治療することで認知症本人も心を開いてくれると思う。一人一人へのアプローチが難しい面もあるので、昨年に引き続き、今年も家族会や居場所に参加して集団療法をしていきたいと思う。

会長 今年度も焼津駅近隣の3つの商店街に協力をいただき、認知症の人への声かけ訓練を認知症サポートー養成講座の受講者を中心に実施する予定。昨年、一昨年と参加人数が少なかったため、今年度は焼津市のキャラバン・メイトの方にも協力いただき、参加者を増やしていきたいと考えている。認知症サポートー養成講座を受けた後、模擬訓練を通じ実践的に認知症の人と接する体験をすることで、さらに認知症に対する理解が深まると思う。今後、訓練を継続していくためにも協力を願いしたい。また、活力ある若い世代を巻き込みながら、認知症カフェやチームオレンジ活動等の施策を進めていただきたいと思う。

協議事項 (2) 認知症施策推進計画の策定について

(事務局より説明)

会長 事務局からの説明に対し、質問、ご意見等はあるか。

委員 認知症の捉え方は人それぞれなので、実際市民の方が認知症に対してどのように考えているのかをアンケート調査するのは興味深く良い取り組みだと思う。精度が高く、偏りのないデータにするために、アンケート調査を行う方法や環境について今後検討いただければと思う。

事務局 現在、オンラインでのアンケートが主流になりつつあるので、電子申請フォームでの調査は比較的偏りのない結果が見込めると思う。また、9月に行われる在宅医療講演会にて在宅医療関係者に対してもアンケートを実施する予定。さらに、チームオレンジコーディネーターが主催するDフェスでもアンケートを実施する予定。Dフェスに関しては、認知症に関心のある方が集まるイベントであるため、結果に偏りが出ると思われる。アンケートを取った場所を表示するなど、偏りが出た

- 場合の対応方法を検討させていただく。
- 委員 認知症アンケートの問16、18はどのような回答を求めて作成したか。
- 事務局 認知症になると周囲に伝えたくないという人が多いが、周囲に認知症であることを伝えないと十分なサポートを受けることができない現状がある。その中で、認知症になると恥ずかしいと思う人がどれくらいいるのかを調査するために、この設問を作成した。
- 委員 国はアンケートや本人ミーティングを実施し、そこで得た回答や認知症本人の声を活かして認知症ガイドブックを作成しているので、市でも活用すべきである。焼津市で行うアンケートや本人ミーティングで得た回答や認知症本人の声は、今後どのように活用していくのか。
- 事務局 アンケートでは市民が認知症に対してどのように考えているのかを調査し、本人ミーティングでは認知症本人がどのように暮らしたいのかを聞き取っていく。アンケートと本人ミーティングから得た市民と認知症本人の考え方のギャップを確認し、差があるようであれば焼津市の認知症施策の見直しを検討し、差がないようであれば現状より一歩進んだ認知症施策に取り組むというような使い方をしていくらと思う。
- 委員 問15、17を回答する際、本人が独居なのか否か、認知症の進行度がどれくらいかによって回答が変わってくると思う。選択肢の回答だけでは、選ぶことができない人もいると思うので、他の選択肢を増やすことも検討いただければと思う。
- 事務局 この設問に関しては回答が難しいと感じているが、アンケート表紙の記入上のお願いの部分で「回答者がイメージされる認知症に基づいて」と記載することで対応させていただいている。選択肢については、多すぎると回答自体が大変になってしまう部分もあるので4つに絞っているが、今後増やすかどうかも含め検討させていただく。
- 会長 今回事務局より提示された「認知症に関するアンケート」については、9月の実施に向けて、市でもまだ改良されると思いますので、最終的には会長である私が確認するということで、任せただければと思うがよろしいか。
(異議なし)
- 事務局はいただいたご意見を精査し、今後の取組を進めていただくとともに、次回の会議につなげていただきたい。
- 以上をもって、本日の議事は全て終了とする。進行を事務局にお返しする。
- 事務局 認知症施策推進計画の策定を進めていくので、ご協力をお願いしたい。
- 次回の開催は11月19日（水）で実施を予定しているのでお願いしたい。

閉会